

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16584

研究課題名(和文) ポスト紛争期イラクの国民形成の包括的研究：教科書分析と世論調査の融合から

研究課題名(英文) Nation Building in post-conflict Iraq

研究代表者

山尾 大(Yamao, Dai)

九州大学・比較社会文化研究院・准教授

研究者番号：80598706

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、2003年のイラク戦争で旧フセイン体制が崩壊した後のイラクを事例に、新・旧体制の学校教科書を中心とする多様な一次資料を比較分析することで、体制側がいかにして公定ナショナリズムを作り出し、国民統合を進めているのかを解明しようとした。さらに、世論調査によって、一般の人々がこうした体制の公定ナショナリズムをどのように受容し再編しているのかという問題、つまり受け手の主体性を解明しようとした。以上を通して、ポスト紛争社会における国民形成のプロセスを動的・包括的に解明することを目的とした。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to clarify the following three points: First, it clarified how did the newly-found regime in Iraq after U.S. invasion in 2003 attempt to build its nation and nationalism by analyzing old and new school textbooks. Second, it clarified how does ordinary Iraqi people accept this official nationalism by conducting poll survey. Third, it clarified a comprehensive process of nation building in post-war society.

研究分野：中東政治

キーワード：イラク 紛争 国民形成

### 1. 研究開始当初の背景

ポスト冷戦期に紛争が多発すると、それに伴って国民形成 (nation building) が極めて重要な課題となった。とりわけ分断社会においては、紛争で破壊された国民の繋がりを回復できるかどうか、国家建設時点の政治的安定を左右する大きな要因となる。

こうした背景に基づき、本研究では、紛争後にナショナリズムの形成や国民統合が不可欠となった分断社会の典型的な例として、中東のイラクに着目した。

### 2. 研究の目的

本研究では、2003年のイラク戦争で旧フセイン体制が崩壊した後のイラクを事例に、新・旧体制の学校教科書を中心とする多様な一次資料を比較分析することで、体制側がいかにして公定ナショナリズムを作り出し、国民統合を進めているのかを解明しようとした。さらに、世論調査によって、一般の人々がこうした体制の公定ナショナリズムをどのように受容し再編しているのかという問題、つまり受け手の主体性を解明しようとした。以上を通して、ポスト紛争社会における国民形成のプロセスを動的・包括的に解明することを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### (1) 教科書の収集と分析

旧体制下で使用されていた小学校1年～高校3年までの国語、宗教、歴史、社会、国民社会教育の5科目分の教科書を収集し、同様に、イラク戦争後に再編された教科書も収集した。これらの教科書は、改訂版も含めて精査し、特に国史が、旧体制と新体制の間でどのように変化したのかという点を包括的に描き出すことを試みた。

#### (2) 世論調査の実施と分析

新旧の教科書分析によって得た国史のイメージとその変容について、イラク国民がどのように考え、受容しているかを理解するために、世論調査を実施した。特にイラク戦争後の新体制が、国民統合のために国民に植え付けようとしている国史のイメージが、国民にどのように受容されているのかという点を中心に質問票を作成し、バグダード大学の調査チームと協力して世論調査を実施した。その結果は、計量分析にかけた。

#### (3) データベース構築と聞き取り調査

イラク国内紙のデータベースを構築した。現在、日刊紙としてイラク国内で刊行されている新聞は、そのほとんどがインターネットを通して閲覧可能となっている。したがって、これまで進めてきた日刊紙のデータベース化作業を継続し、国民形成のための政策とその変容について、分析した。それに加え、戦後の教科書編纂に直接かかわった数人のイラク人研究者に聞き取り調査を行った。

### 4. 研究成果

(1) 体制側がいかにして公定ナショナリズムを作り出し、国民統合を進めているのかという問題については、主として新旧教科書を分析することで解明した。

その結果、戦争や外敵といった脅威に対して、英雄的な指導者を核にした祖国防衛の必要性を基軸に国民統合を進め、それを正当化するために古代メソポタミア文明の末裔としてのネーションのプライドを強調してきた旧体制に対して、新体制は、旧独裁体制を克服して民主主義と自由を勝ちとったという新たな国史をシンボルにし、民主主義が担保する国民の平等と愛国心を軸に国民統合を進めるようになったことを明らかにした。

(2) 一般の人々がこうした体制の公定ナショナリズムをどのように受容しているのかという問題については、主として世論調査によって解明した。

その結果、旧体制下で活用されていた古代メソポタミア文明の遺産は、現在でもネーションにプライドを付与する重要なファクターになっている点、そして自由や民主主義を勝ち取ったことについては誇りに思う判断、ほとんどの回答者が民主的な政府の機能不全を問題視している点、したがって、新体制が国民統合の原理として提示しているロジックや新たな国史のイメージが、実際には極めて多様な形で受容されていることが、世論調査の計量分析で明らかになった。

#### (3) 国民形成の包括的な理解。

以上を踏まえ、国民形成の包括的な理解を目指した。本研究の調査・分析から明らかになった最も重要な点は、民主主義が担保する国民の平等にもとづく国民形成は、一般の人々には受け入れられておらず、彼らは極めて強いナショナルな意識や愛国心を示す一方で、国家はほとんど信頼しないというパラドックスである。その要因を解明するのは、次なる研究課題となるが、本研究の中で着目したのは、体制転換が外部介入によってもたらされ、極めて短期間のうちに国民統合を実現させなければならなかったという事実である。イラクの場合、外部介入による体制転換を経て急速に国民を作る必要に迫られた結果、ネーションを統合する核となる要素や資源がほとんど見当たらなかった。

したがって、最大多数の国民が合意できる点、すなわち民主主義と自由を核に国民統合を進めるほかなかった。だが、ナショナリズムと民主主義を結び付けた国民統合のシンボルは、イラク人にとって、体制転換をもたらした米国という外部アクターが持ち込んだ脱歴史的で外在的な要素であった。だからこそ、それを正当化するために、「イラク人が民主主義と自由を勝ち取った」という新たな国史を創造することによって、ネーション

にプライドを与える必要があったのである。その結果、外部介入という政治変動の経路は、国民統合のシンボルに脱歴史的で外在的な要素を持ち込み、それを正当化するための国史の飛躍をもたらしたのである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

山尾大 2018 「IS なきイラクをめぐる競合選挙戦略とクルディスタン地域政府 (KRG) の住民投票」『中東協力センターニュース』(1月号), pp. 8-28. 査読なし

山尾大 2017 「よみがえる古代メソポタミア文明 イラク政治に利用/活用される歴史」『歴史と地理 世界史の研究』708, pp. 52-55. 査読なし

山尾大 2017 「引き裂かれる国家 IS はイラクに何をもちたのか」『世界』896号(2017年6月号), pp. 159-167. 査読なし

山尾大 2016 「介入の縮小という隘路 オバマ政権のイラク政策と広がる宗派対立」『中東研究』(527), pp. 14-27. 査読なし

山尾大 2016 「「古参」幹部の政治か、合理的政府の形成か アバーディー改革が惹起した政治構造をめぐるポリティクス」『海外事情』64(9), pp. 63-77. 査読なし

山尾大 2016 「分断を促進する安全保障 戦後イラクの事例から」『立命館大学人文科学研究紀要』109, pp. 7-45. 査読なし

山尾大 2016 「中東世論調査(イラク 2016年) 単純集計報告書」([https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2017/04/report\\_iraq2016.pdf](https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2017/04/report_iraq2016.pdf)) 査読なし

山尾大 2015 「「イスラーム国」との戦いと迷走するアバーディー改革 分断されるイラク政治の行方」『中東協力センターニュース』(12月号), pp. 25-37. 査読なし

山尾大 2015 「イラク 政治対立の激化と「イスラーム国」の台頭」『石油・天然ガスレビュー』, pp. 1-18. 査読有

山尾大 2015 「「イスラーム国」の拡大と引き裂かれるイラク」『海外事情』63(9), pp. 2-15. 査読なし

山尾大 2015 「ポスト・コンフリクト社会のガバナンスを考える イラクを事例に」『年報政治学』2014年II号, pp. 135-155. 査読有

[学会発表](計 9 件)

山尾大 2017. "A Comparative Study on Reconstruction of National History: Iraqi and Japanese Cases", lecture in Mustansiriyah University, Baghdad, Iraq,

18 October.

山尾大 2017. "How Nation was re-created? Comparative Studies in Post-war Japan and Iraq", 7<sup>th</sup> Iraqi Japanese International Conference, Role of Religious Scholars and Intellectual Elites to Enhance the National Identity in Iraq and Japan, (Kufa University and Abbasi Ataba, Najaf and Karbala, Iraq, 23-24 January).

山尾大 2016 「分断社会の多元的な政軍関係 戦後イラクを事例に」『国際政治学会』幕張メッセ(2016年10月14日)

山尾大 2016 「イスラーム世界とグローバル・ガバナンス」『グローバル・ガバナンス学会』(第9回研究大会)大阪大学(2016年10月8日)

山尾大 2016. "Elite Politics or a Rational Government? Abadi's Reforms and Rise of Social Movement", 6<sup>th</sup> Iraq-Japan Academic Workshop: Post-ISIS Iraq, Searching for a Better Future (Chiba University, University of Tokyo, 24 September 2016.)

山尾大 2016. "Mobilising Sectarianism in the Changing Regional and International Politics: The Case of Iraq", 24<sup>th</sup> World Congress of Political Science (International Political Science Association, IPSA) (Poznan, Poland, 25 July 2016).

山尾大 2015. "Reconstruction of National History: Iraqi and Japanese Case", 5<sup>th</sup> Iraqi-Japanese Symposium (Basrah University, Iraq, 14 December).

山尾大 2015. "Turmoil of Iraqi Politics and its Impact on Iraqi-Japanese Relation", CMENAS/CJI Symposium, Japan and the Middle East: Energy, Politics, and Culture (University of Michigan, USA, 20 November 2015).

山尾大 2015. "Historical Syria Revisited? 'Failure' of State Building in Iraq and Challenges on Regional Security", International Studies Association, Global South Caucus Conference (Singapore Management University, Singapore, 10 January 2015).

[図書](計 6 件)

山尾大 2018 「イスラーム世界のグローバル・ガバナンス OIC とサブナショナルなアクターの挑戦」グローバル・ガバナンス学会編『グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域』法律文化社, pp. 87-105.

山尾大 2017 「イラク」私市正年・浜中新吾・横田貴之編著『中東・イスラーム研究概説 政治学・経済学・社会学・地域研究の

テーマと理論』明石書店, pp. 291-296.  
山尾大 2016「イラクの現状を検証する  
戦争がもたらした政治社会の混乱」長沢栄  
治・栗田禎子編『中東と日本の針路 「安  
保法制」がもたらすもの』大月書店, pp.  
64-77.  
山尾大 2016「イラク国家建設と軍再建の蹉  
跌 政治の介入と準軍事組織の台頭」酒  
井啓子編『途上国における軍・政治権力・  
市民社会 21世紀の「新しい」政軍関係』  
晃洋書房, pp. 149-167.  
ロジャー・オーウェン(山尾大・溝淵正季  
訳) 2015『現代中東の国家・権力・政治』  
明石書店, 472 ページ.  
吉岡明子・山尾大(編著) 2014『「イスラ  
ーム国」の脅威とイラク』岩波書店, 280  
ページ.

(4)研究協力者  
( )

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

山尾 大(YAMA0, Dai )  
九州大学・大学院比較社会文化研究院・准  
教授  
研究者番号: 80598706

(2)研究分担者

( )

研究者番号:

(3)連携研究者

( )

研究者番号: